

# 生活安全編



日常生活で起こる事件・事故の内容や発生原因、安全確保の方法について理解し、安全な行動をとれるようにする。

	ねらい	項目	内容
園内での生活の安全	園舎・園庭で安心して生活するために必要な約束が分かり、守る。	施設・設備の安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由に行動できる場所、教職員と一緒に使用する場所などの約束（門から外に一人で出ない等）</li> <li>危険な場所、危険な遊びについての意識化</li> <li>危険な状態（場所、環境、行動等）に気付いた場合、教職員等に連絡</li> </ul>
	遊具や道具の使い方が分かり、安全に気を付けて使う。	遊具や遊びに使う道具の安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>園庭の固定遊具の安全な遊び方大型の遊具（巧技台、大型積木等の使い方）</li> <li>遊びや生活に必要な道具や材料（ハサミ、鉛筆、ステープラー、スコップ、箸等）の安全な使い方や扱い方、片付け方</li> </ul>
	体を十分に動かし、機敏な動作ができる。	体を動かす遊びでの安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な遊びの中で、十分に体を動かすことへの意欲と機敏な動作</li> <li>危険に対する構え、まわりの人の動きや物の状況に応じた動き</li> </ul>
	自分や友達が、けがや具合が悪いときは、すぐに近くの大人に言う。	けがや病気への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分がけがをしたり不調だったりしたときの対処の仕方</li> <li>友達の様子で見たこと・気付いたことも伝える大切さ</li> </ul>
	自然（動植物等）に興味をもち、命の尊さや安全な遊び方に気付く。	自然とかかわる活動の安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な動植物への親しみやいたわり自然への興味関心と自然とかかわるときにの心構え（危険な物や場所）</li> </ul>
遠足・園外保育の安全	安全に気を付けて、遠足・園外保育を楽しむ。	遠足・園外保育等での安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠足・園外保育集団で行動するときに必要な約束（一人で行動しない、教職員の指示を聞いて行動する）</li> </ul>
	交通機関を利用するときの安全な行動の仕方が分かり、行動する。	交通機関の安全な利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>電車やバス等に乗降するときの約束</li> </ul>
活動の安全 特に配慮を要する	安全に気を付けて、水遊びや雪遊びを楽しむ。	水遊び雪遊び等での安全な遊び方	<ul style="list-style-type: none"> <li>水遊びや雪遊び等を行うときに必要な約束</li> </ul>

事件・事故災害発生時の適切な行動	事件、事故が発生したときに適切な行動がとれるようにする。	事件、事故が発生したときの適切な行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人（教職員・保護者等）への通報、応急処置の必要性を理解</li> </ul>
	不審者の侵入時の避難の仕方や対応の仕方を知る。	不審者に遭遇した時の行動の仕方を知る 園に不審者が侵入したときの避難の仕方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な行動 「知らない人について行かない」 「大人に知らせる」 (い・か・の・お・す・し)</li> <li>・不審者侵入の合図を知る</li> <li>・教師から離れない</li> </ul>
	熱中症や光化学スモッグによる身体への影響や症状を知り、安全な行動ができる。	熱中症の予防や光化学スモッグ発生時の避難の仕方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱中症予防の水分補給の大切さ 光化学スモッグ発生時に身体が感じる変化</li> <li>・安全な場所へ避難する又は危険を回避する過ごし方を知る</li> <li>・不調を感じたら、すぐ教職員に伝える</li> </ul>
家庭生活の安全	園庭・施設開放時に安全に気を付けて遊ぶ。	園庭・施設開放時での安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の管理の下で、園庭、施設の安全な使い方や約束</li> <li>・けがやトラブル発生したときの適切な行動</li> </ul>
	家庭の内外で、安全な行動の仕方が分かる。	家庭の内外で起こる事故、犯罪被害と安全な行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気・ガス・暖房器具等家庭内の危険物の確認、安全に生活するための約束</li> <li>・安全な遊び場所、自宅周辺の危険な場所、遊びの約束を保護者と確認</li> </ul>
地域や社会生活での安全	誘拐等事件や事故に遭ったときに自分の身を守る適切な行動が分かる。	地域での犯罪・事故の発生時における安全な行動の仕方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の身を守る適切な行動（遠くに行かない、知らない人についていかない等）</li> <li>・近隣の安全な場所・危険な場所の確認（見通しが悪い、荒れている、人通りが少ないなど）</li> <li>・事件や事故に遭遇したときの適切な行動（助けを求める）</li> </ul>
	安心して暮らせる地域社会づくりの活動に関心をもつ。	地域での犯罪被害の防止に関する活動や対策 地域・社会生活の安全に関する機関や団体の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの安全のために、身の回りの人々が行っている活動への気付き</li> </ul>

ねらい 「安全な園生活のための決まりを知り、守って生活する」

指導の  
ポイント

園の中での生活の仕方、遊具や道具の使い方

幼稚園で安心して生活するために必要な約束が分かり、守れるようにする。  
遊具や道具の使い方が分かり、安全に気を付けて使えるようにする。

安全に生活するために

# 約束を守って生活する

目指す  
子どもの姿

○危険な場所には近づかない

○危険な遊び方はしない

学習の  
ポイント

危険な場所	遊具や道具の使い方	日常生活
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 門の外には、一人で出ない。</li> <li>・ 窓には近寄らない。</li> <li>・ ベランダには出ない。</li> <li>・ 危険な場所を見つけたら、近づかず大人に知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園庭の固定遊具の遊び方</li> <li>・ 大型の遊具の使い方(巧技台、大型積み木等)</li> <li>・ 生活に必要な道具の使い方、片づけ方(ハサミ、鉛筆、ステープラー、スコップ、箸等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廊下や階段は走らない。</li> <li>・ 勢いよくドアや引き戸を開けたり、閉めたりしない。</li> <li>・ 食事の前、活動のあとなど、手洗い・うがいをしっかりする。</li> <li>・ 先生の指示に従う。</li> </ul>

自助・共助  
のポイント

## 危ないことはやらない、近寄らない

## 危ないことを見つけたら大人に伝える

教職員の援助・保護者との連携

- ・ 危険な行動を見かけたら、教職員間の連絡をとり、指導を徹底する。
- ・ 幼児の発達に合わせた道具の選択・設定を工夫する。
- ・ 遊具、道具の使用前と使用後の安全点検を行う。
- ・ 園内での共通のルールを確認し、指導の徹底を図る。
- ・ 日頃から何かあった時には身近な教職員・保護者に伝えることを習慣づけておく。

ねらい 「不審者に遭遇した時の行動の仕方を知る」

指導の  
ポイント

不審者侵入時の避難の仕方や対応の仕方

不審者に遭遇した時の行動の仕方を知り、行動できるようにする。  
園に不審者が侵入したときの避難の仕方を知り、行動できるようにする。

知らない人には

# 絶対についていけない

目指す  
子どもの姿

○知らない人には近づかない

○知らない人を見かけたら、すぐに先生に伝える

学習の  
ポイント

### 不審者対応訓練

- ・不審者侵入時の緊急放送を知り、行動の仕方を知る。
- ・不審者が園に入ってきたときの放送の合図を知らせる。
- ・放送が流れたら、急いで近くの先生の所に集まる。

### 園庭で遊んでいる時

- ・知らない人を見かけたり、話しかけられたりしたら、すぐに近くの先生に伝える。
- ・身の危険を感じたら、近くの扉からすぐに部屋に入り、先生に伝える。

### 地域で遊ぶ時

- ・遠くに行かない。
- ・知らない人についていけない。
- ・危険な場所(見通しが悪い、荒れている、人通りが少ない等)には行かない。
- ・何かあったら、助けを求める。

## 「いか・の・お・す・し」

自助・共助  
のポイント

いかない・のらない・おお声でさけが・  
すぐに逃げる・しらせる

### 教職員の援助・保護者との連携

- ・視聴覚教材、劇的な動きで、わかりやすく、また必要以上に子供たちに恐怖心を抱かせないようにして理解を図る。
- ・家庭との連絡体制を日常から整え、常に点検しておく。
- ・警察等から得た不審者情報を保護者にも伝え注意を促したり、危険な場所を親子で確認するよう依頼したりする。

ねらい 「自分や相手の体を大切にして生活する」

指導の  
ポイント

体の大切な部分の守り方

自分や相手の体の大切な部分を知り、どちらも大切にできる行動ができるようにする。  
自分の体を見られたり、触られたりして嫌な気持ちになったときの対応方法を知り、行動できるようにする。

目指す  
子どもの姿

自分や相手の

# 体を大切にする

○自分の大切なところを見せたり、触らせたりしない

○相手の大切なところを見たり、触ったりしない

学習の  
ポイント

### 大切なからだ

- ・自分の体は自分だけの大切なものであることに気付く。
- ・相手の体も大切であることを理解する。

### 体のだいじなところ

- ・自分だけの大切なところ(「水着で隠れる部分」等)を見せたり、触らせたりしてはいけないこと、また、相手にも同じことをしないことを理解する。

### 嫌な気持ち

- ・嫌な気持ちになったり、びっくりしたりする触り方について考え、対応方法を身に付ける。

「嫌だ」と言う、逃げる、安心できる大人に相談

自助・共助  
のポイント

嫌な気持ちを声に出す、伝える

### 教職員の援助・保護者との連携

- ・園での生活の中で、自分と相手の大切なところを守るルール、自分の体を見られたり、触られたりして嫌な気持ちになったときの対応方法について、遊びや日常生活を通して繰り返し伝える。
- ・「生命(いのち)の安全教育教材(幼児期)」(文部科学省：[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/danjo/anzen/index2.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/danjo/anzen/index2.html))を紙芝居形式にしたり、園での生活の中で場面を捉えて、教材の一部を取り出したりして活用する。(例：プール等、一斉に着替える場面があるときに「じぶんだけのだいじなところ」を活用)
- ・教職員と保護者との情報交換の機会を設けたり、保護者と幼児の活動の機会を設けたりすることを通じて、家庭との連携を十分に図り、保護者の「生命(いのち)の安全教育」に関する理解が深まるよう配慮する。